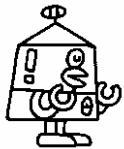


## へそのおについて、教えて



へそのおは、お母さんから赤ちゃんが<sup>えいよう</sup>栄養や<sup>さんそ</sup>酸素をもらったり、いらなくなったものをわたしたりする管だよ。

### へそのおは、赤ちゃんとお母さんの体をつなぐ大切な管

赤ちゃんはお母さんの体内にいるとき、必要な栄養分や、うんちやおしっこに当たるものを、へそのおを通してお母さんとやりとりしています。また、羊水<sup>ようすい</sup>につかっている赤ちゃんは、呼吸<sup>こきゅう</sup>をするかわりに、へそのおを通して必要な酸素を受け取ったり、体内にできない<sup>にさんかたんそ</sup>二酸化炭素をわたしたりしています。

へそのおは、お母さんの子宮<sup>しきゅう</sup>のたいばんとつながっています。たいばんには、たくさんの血管が集まっていて、お母さんの血液が、栄養分や酸素を運んできたり、二酸化炭素などのいらぬものを受け取って、すてるしよりにしています。

### へそのおは、3本の管からできている

へそのおは、太さが約1cm、長さ約50cmのねじれた管です。管の中を調べると、1本の太い管に2本の細い管がまきついたようになっていています。この太い管で、たいばんから赤ちゃんの体に栄養や酸素が運ばれます。2本の細い管は、赤ちゃんの体内でできないものを運び出す役目をします。

赤ちゃんは、生まれてくるとすぐ空気をすって、オギャーとないて自分で呼吸を始めます。そうすると、へそのおを通してお母さんから送られていた血液はとまってしまいます。そのため、赤ちゃんが生まれたときへそのおを切っても、血はほとんど出ません。

